

科目名	英語Ⅱ		
担当教員	山口 大		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	後期	1	15
履修目的・授業概要 医療場面での会話・医療に関する題材を用いて、医療や看護に関する用語の理解と関心を深める。			
到達目標 医療や看護に関する用語を理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
英和辞書(各自準備)			

コマ	履修内容	教員
1	1.Greetings and Parting Remarks 2.Personal History	山口
2	1. Admission and Orientation to the Hospital Routine 2.Daily Activities	山口
3	1.Pain 2.Clinical History	山口
4	1.Vital Signs and Physical Examination 2.Positioning the Patient in Bed and Making the Bed	山口
5	1.Bath and Comfort 2.Procedures	山口
6	1.Tests 2.Patient Teaching	山口
7	まとめ	山口
8	履修認定	山口
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	倫理学		
担当教員	白井 暢明		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
前半では人間の倫理，倫理学とはどのようなものであるかを理解させ，後半では生命倫理における主な問題や論点を取り上げ，現代における倫理的な問題についての理解を深める。			
到達目標			
1.現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題を理解する 2. 諸問題を倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力を育む。3. 医療現場の倫理的な問題に気づくことができる感性＝倫理的感性を高める。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
議論や質問によって主張やそれを支える根拠を洗練していく過程にこそ、倫理学の底知れない魅力です。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	

コマ	履修内容	教員
1	倫理学とはなにか？ ・「～ある」と「～あるべき」の違い ・善悪の基準とは？	白井
2	倫理学の歴史① ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（1）	白井
3	倫理学の歴史② ギリシャ哲学（ソクラテス，プラトン，アリストテレス）における倫理思想（2）	白井
4	倫理学の歴史③ カントの道徳哲学	白井
5	倫理学の歴史④ ベンサム，ミルの功利主義的倫理学	白井
6	倫理学における二つの立場 功利主義と義務感	白井
7	生命倫理とはなにか？ 生命倫理の三つの原理：自己決定権，パーソン論，生命の神秘性	白井
8	人工妊娠中絶の問題 人工妊娠中絶に対する賛否両論	白井
9	生殖補助技術の倫理的問題 ・人工授精 ・着床前診断 ・出生前診断	白井
10	脳死判定と臓器移植の問題 ・死の定義をめぐる論争 ・臓器移植のドナー家族と斡旋システムの問題	白井
11	安楽死・尊厳死の問題 ・世界の趨勢・QOL（生の質）倫理とSOL（生の神秘性）倫理	白井
12	遺伝子技術 ・遺伝子による診断 ・検査 ・改良（クローン）・治療	白井
13	ターミナルケア ・人間にとって死とはなにか？ ・死の受容・死の看とりの重要性	白井
14	生命倫理と宗教 ・生死に関する根源的な問いと宗教，スピリチュアル・ケアの重要性	白井
15	まとめ	白井

科目名	異文化理解		
担当教員	野村 幸輝		
実務経験	英語通訳		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
ここではアメリカの地理・歴史・慣習・文化・アメリカ人の気質・各地域について理解することを目的とする。海外旅行をする際の準備の方法や旅先でのマナーについても学ぶ。			
到達目標			
我が国と最も関係の深いアメリカとその文化について知る。特に二国間の文化の違いを認識する。			
授業の形式・方法			
講義、グループワーク、ペアワーク、DVD鑑賞			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
すべての講義に出席しましょう。 みなさんの積極的な授業参加に期待します！			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
初回講義で自作のプリントを配布する			

コマ	履修内容	教員
1	アメリカの地理と歴史	野村
2	アメリカの慣習と文化	野村
3	アメリカ人の気質	野村
4	アメリカの地域（一）ニューヨーク	野村
5	アメリカの地域（二）フロリダ	野村
6	アメリカの地域（三）カリフォルニア	野村
7	アメリカの地域（四）ハワイ	野村
8	履修認定	野村
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	レクリエーション論		
担当教員	野々村 雅人 野々村 裕子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
遊びや活動・企画を通して、健康の保持増進・集団活動の方法の一つを学ぶ。			
到達目標			
1. レクリエーションの中の「アイスプレーキング」「ホスピタリティー」を理解し、実際におこなえる			
2. さまざまなレク体験をすることで「楽しい!」という思いを漢字、他者へのレク支援、指導に繋げていく			
3. レク対象者の特徴を知り、対象に合わせたレクを理解できる。			
授業の形式・方法			
講義、GW、演習、レポート			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
* 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
まずは、このクラスの中で、レクを通じて言葉のありなし関わらず、様々なコミュニケーションを図り、実践しながら、その後に活かしていく流れとなっていたきたい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
なし			
必要時資料提示			

コマ	履修内容	教員
1	「レクリエーション」とはなにか？ 障害、高齢の方々など動画を見ながら。アイスプレーキングも含めて	野々村 雅人
2	巢ループゲーム 様々なレクのお遊びを通じて、楽しさを知る	野々村 雅人
3	子どものこと遊んだ思い出のお遊びの中から楽しみを作る	野々村 雅人
4	ニュースポーツ① フライングディスク等機材を使用しながら、チーム等で楽しさを知る	野々村 雅人
5	身近なもの（新聞紙や紙コップ等）を使用してのレク	野々村 雅人
6	ニュースポーツ②ボッチャ体験 障がいのあるなしに関わらず楽しめるレク体験	野々村 雅人
7	クラフト コミュニケーションを図りながら楽しむ感覚を	野々村 雅人
8	アイスプレーキング ボードゲーム体験、トランプ、ウノ、昔遊び等	野々村 裕子
9	子ども対象のレク 絵本、紙芝居、パネルシアター、折り紙等	野々村 裕子
10	高齢者対象のレク 脳トレ、健康体操、サイコロゲーム等	野々村 裕子
11	障がい者対象のレク ダンス、新聞遊び等	野々村 裕子
12	季節に合わせたレクリエーション	野々村 裕子
13	レクリエーションの実際 発表準備	野々村 裕子
14	レクリエーションの実際 グループ発表	野々村 裕子
15	履修試験	野々村 雅人 裕子

科目名	治療論Ⅲ		
担当教員	旭川医科大学 外科学講座 麻酔蘇生学講座		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要 疾病の回復を促進する各治療の原則を理解する。治療論Ⅲでは、手術療法、麻酔について学習する。			
到達目標 1.手術療法の適応がわかる 2. 術前・術中・術後の管理がわかる 3. 麻酔法および麻酔による治療が理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永勝彦 高橋則子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	手術療法 周手術期にある人の特徴と理解①	医大医師
2	手術療法 周手術期にある人の特徴と理解②	医大医師
3	手術療法 手術療法の実際	医大医師
4	手術療法 手術療法の実際	医大医師
5	手術療法 手術療法の実際	医大医師
6	麻酔による治療 麻酔法	医大医師
7	麻酔による治療 呼吸管理、体液・栄養管理	医大医師
8	履修認定	医大医師
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	治療論Ⅳ		
担当教員	旭川医科大学放射線医学講座 北海道医学技術専門学校 仲山春恵・田中恵理子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要 疾病の診断・回復を促進する診断法・治療法の原則を理解する。治療論Ⅲでは、放射線治療と臨床検査について学習する。			
到達目標 1. 放射線治療の概要が理解できる 2. 放射線防護の基本が理解できる 3. 臨床検査の概要が理解できる 4. 検体の取り扱いが理解できる			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%:放射線45%・臨床検査55%） * 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	尾尻博也	医学書院	
系統看護学講座 別巻 臨床検査	奈良信雄 和田隆志	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	放射線物理と人体に対する放射線の影響	旭川医大 放射線医学講座
2	放射線防護の基本と健康管理	旭川医大 放射線医学講座
3	放射線治療	旭川医大 放射線医学講座
4	臨床検査とその役割・一般検査	仲山
5	血液検査・生化学検査	仲山
6	微生物学的検査・病理検査	仲山
7	生体検査	田中
8	履修認定	旭川医大 仲山・田中
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	リハビリテーション論		
担当教員	川上 和敏 菊川 拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を学ぶ。疾病や障害をもちながらも「生活する人」としてとらえ、看護の本質である「その人らしく生きること」を支援し、多職種と連携しながらQOLを高める看護に活用できる基礎的知識・技術を学習する。			
到達目標			
1. リハビリテーションの目的や考え方、チームアプローチについて理解する。			
2. リハビリテーションの実際を経験し、看護援助に活用できる			
授業の形式・方法			
講義、演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100%）			
* 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション 看護	武田 宜子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーションの概念 チームアプローチ	川上
2	リハビリテーションの対象の理解	川上
3	リハビリテーションとADL評価	川上
4	障害のアセスメントの基礎	菊川
5	リハビリテーションの実際 運動麻痺と機能訓練	菊川
6	リハビリテーションの実際 姿勢・移動に関するリハビリテーション	菊川
7	リハビリテーションの実際 姿勢・移動に関するリハビリテーション(演習)	菊川
8	履修認定	川上 菊川
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	保健医療論		
担当教員	西條泰明 吉岡英治 汐月博之		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
保健医療福祉・公衆衛生の意義と仕組みや倫理的課題について、総合的に理解し、人々の健康の保持・増進のために活用できる基礎的能力を養うことを目的とする。			
到達目標			
1. 健康づくりの基本と健康づくり対策を理解する。			
2. 現代社会における公衆衛生的課題を理解する。			
3. 医療サービスの推進・確保のための方策を理解する。			
4. 現代医学における倫理的諸問題を理解する。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
* 不合格者は再試験とし、再評価する。			
学生へのメッセージ			
人々の健康を支えるための保健、医療、福祉の役割を理解し、看護職としての役割について学んでほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
わかりやすい公衆衛生学	清水 忠彦	ヌーヴェルヒロカワ	

コマ	履修内容	教員
1	認知症を予防するための生活習慣	吉岡
2	自殺の疫学と自殺対策	吉岡
3	高齢者のうつ病	吉岡
4	産業保健	汐月
5	難病対策・障害者保健	汐月
6	生活習慣病・健康教育とヘルスプロモーション	汐月
7	医療・介護保障制度	汐月
8	地域保健	汐月
9	疫学研究と脳卒中データバンク	汐月
10	医療倫理の基本	西條
11	人を対象とする医学研究と倫理	西條
12	利益相反	西條
13	インフォームド・コンセント	西條
14	死について 臓器移植・再生医療の倫理	西條
15	履修認定	西條 吉岡

科目名	公衆衛生学		
担当教員	佐藤 遊洋		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
健康増進・疾病予防および疾病構造の変化とそれを取り巻く社会環境を理解する。また、地域集団における健康の保持・増進のための組織的な保健活動についても理解する。			
到達目標			
1. 集団および各対象における公衆衛生活動を理解する。			
2. 公衆衛生活動の組織・職種・制度を理解する。			
3. 公衆衛生活動に関わるの法規・規則を理解する。			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験			
* 不合格者は再試験とし、再評価する。			
学生へのメッセージ			
健康周りの環境から影響を受けていることを理解し、健康増進と疾病の予防のために広い視野を得てほしい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
わかりやすい公衆衛生学	清水 忠彦	ヌーヴェルヒロカワ	
(参考書)国民衛生の動向			

コマ	履修内容	教員
1	公衆衛生学総論	佐藤
2	疫学と根拠に基づく医療	佐藤
3	人口統計調査 保健統計調査	佐藤
4	母子保健 学校保健	佐藤
5	高齢者保健	佐藤
6	環境と健康 国際保健	佐藤
7	感染症対策 食品保健と栄養	佐藤
8	履修認定	佐藤
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	関係法規Ⅰ		
担当教員	枋岡 宏成 澤田 みどり		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	15
履修目的・授業概要 法の基礎知識と保健・医療・看護における法規を学び、 看護師としての業務と責任を自覚する。多職種連携の基 本となる、各職種の法的位置づけについても学ぶ。			
到達目標 1. 法の基礎を理解する 2. 保健・医療・看護に関する法を理解する 3. 多職種連携の基礎となる、各職種の法的位置づけを 理解できる。			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100%） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 専門基礎分 野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令	森山幹夫	医学書院	
(参) 看護六法	看護行政研究会	新日本法規	

コマ	履修内容	教員
1	法の概念 法とは何か	枋岡
2	法の概念 衛生法規の意義と分類	枋岡
3	法の概念 厚生行政のしくみ	枋岡
4	医事法規：看護法 保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の促進に関する法律	澤田
5	医事法規：医療法 医療法	澤田
6	医事法規：医療関係資格法 医師法・歯科医師法・薬剤師法・医療関係資格法・保健衛生福祉資格法	澤田
7	医療過誤：医療を支える法 医療・介護の提供体制/移植医療/地域振興/人の死/緊急時	澤田
8	履修認定	枋岡 澤田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	基礎看護学方法論IX		
担当教員	矢野 優子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要			
検査を受ける患者の苦痛を理解し、安全・安楽な援助技術を学ぶ			
薬物療法に関する基礎知識を学ぶ。さらに、薬物療法時の看護について理解し、その役割について学ぶ			
到達目標			
1.血液検査、尿・便検査、喀痰検査を理解し、それぞれの検査時の看護を理解する			
2.生体情報のモニタリングの意義と看護の実際を理解する			
3.与薬に関する基礎知識を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を理解する			
4.薬物投与方法の特徴を理解し、援助の実際を理解する			
5.輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
演習では医療器具を使用します。 身だしなみと整え、安全に留意し演習に臨むようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	任 和子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	検体検査 ①血液検査（静脈血採血）	矢野
2	検体検査 ②血液検査（動脈血採血、血糖測定） ③尿・便・喀痰検査	矢野
3	生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②SpO ₂ モニター ③血管留置カテーテルモニター	矢野
4	症状・生体機能管理技術 心電図モニター・採血（技術演習）	矢野
5	与薬 ①与薬の基礎知識 ②経口与薬・口腔内与薬 ③吸入	矢野
6	与薬 ③点眼 ④点鼻 ⑤経皮的与薬 ⑥直腸与薬	矢野
7	注射 ①注射の基礎知識 ②注射の準備	矢野
8	注射 ①注射の実施方法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）	矢野
9	注射 ②注射の実施方法（静脈内注射・点滴静脈内注射）	矢野
10	注射 ③注射の実施方法（点滴静脈内注射・中心静脈内カテーテルの管理）	矢野
11	注射 ④注射の実施方法（輸液速度・輸液ポンプ・シリンジポンプ・点滴静脈内注射による混注）	矢野
12	輸血管理 ①輸血管理の基礎知識 ②輸血管理の実際	矢野
13	与薬 座薬・点滴静脈内注射（技術演習）	矢野
14	与薬 筋肉内注射・皮下注射（技術演習）	矢野
15	履修認定	矢野

科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅰ		
担当教員	鳴海蘭花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
家族は社会構成の基本単位であり、家族看護とは家族を看護の対象とし、家族が本来有する機能と家族の健康に関するケア機能を高める援助を探究する分野です。また家族に生じる健康問題、それに関連した要因への看護援助について家族看護の諸理論を学ぶ。			
到達目標			
1. 家族看護の特徴や理念、対象を説明できる 2. 家族看護を支える理論と介入法を説明できる 3. 家族アセスメントモデルについて説明できる 4. 演習を通して、地域で生活する家族に対する問題について考察し、発表できる			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験(60%)、 演習 レポート(20%)・発表(20%) ＊不合格者は再試験(筆記試験)とし、再評価			
学生へのメッセージ			
演習では、地域で生活している方々の生の意見を聞くことができる貴重な機会になります。相手に失礼のないよう接していかなければなりません。事前準備をしっかりと行い真剣に臨むようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 家族看護学	上別府圭子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	家族看護の特徴と理念 家族看護の対象理解 家族構造	鳴海
2	家族看護の対象理解 ジェノグラム・エコマップ 演習	鳴海
3	家族看護の対象理解 家族機能	鳴海
4	家族看護を支える理論と介入方法 家族発達理論・家族システム理論/家族ストレス対処理論	鳴海
5	家族看護を支える理論と介入方法 家族療法 家族を支える介入	鳴海
6	家族看護展開の方法 家族看護の実践・多職種連携	鳴海
7	家族看護展開の方法 家族アセスメントモデル	鳴海
8	異世代交流とは オリエンテーション 計画書作成	鳴海
9	異世代交流会準備①	鳴海
10	異世代交流会準備②	鳴海
11	各グループに分かれて異世代交流①	鳴海
12	各グループに分かれて異世代交流②	鳴海
13	異世代交流会 学びの発表準備	鳴海
14	異世代交流会 学びの発表発表	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ		
担当教員	大橋 正敏		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
住み慣れた地域で療養生活を行う上で、療養者が必要なシステムと社会資源にはどのようなものがあるのかを再確認し、実際の訪問看護がどのように行われているかを学習していきます。			
到達目標			
1. 地域で暮らす療養者とその家族について理解できる 2. 地域・在宅看護に関わる制度が理解できる 3. 地域で暮らす様々な人々に関わる制度が理解できる			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
高齢者や疾病を抱えている方が居宅で暮らしを送る際、病院とは異なり万全とはいえない環境下におかれる場合が多く、様々なリスクを抱えながら過ごされているのが現状です。このような方々が住み慣れた地域で穏やかに暮らしていくには、様々な法律や社会資源制度がなどの生活を支える制度が関わっています。自分がその場にいたらどうしたらいいだろうとイメージしながら講義に臨んでみてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤	河原加代子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.地域・在宅看護の対象 (1)家族の理解 (2)地域における家族への看護	大橋
2	2.地域における暮らしを支える看護 (1)地域におけるライフステージに応じた看護 (2)地域での暮らしにおけるリスクの理解	大橋
3	3.地域での暮らしを支える看護 (1)地域医療の概要 (2)地域医療における看護師の役割	大橋
4	4.地域・在宅看護の場と連携 (1)住まいで提供される看護と医療機関での看護 (2)医療専門職との連携	大橋
5	5.地域・在宅看護の場と連携 事例学習 グループワーク・発表	大橋
6	6.地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 (1)介護保険制度と医療保険制度 (2)地域・在宅看護にかかわる医療提供体制	大橋
7	6.地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 (1)訪問看護制度 (2)地域保健に関わる法制度 (3)高齢者・障害者に関わる法制度	大橋
8	履修認定	大橋
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ		
担当教員	鳴海 繭花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
訪問看護の基本技術と療養者の生活支援技術が理解できる			
到達目標			
1.訪問看護活動の実践が理解できる			
2.在宅における基本技術が理解できる			
3.在宅における支援技術(日常生活援助と医療処置)が理解できる			
授業の形式・方法			
講義、演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
医療機関でなくても、居宅で様々な治療やケアを受けることができます。当単元では療養者の自宅に訪問する際の在宅看護ならではのケアの実際を学んでいきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 地域・在宅看護の実践	河原加代子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術①	鳴海
2	2.呼吸に関する地域・在宅看護技術②	鳴海
3	3.食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術①	鳴海
4	4.食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術②	鳴海
5	5.排泄に関する地域・在宅看護技術①	鳴海
6	6.排泄に関する地域・在宅看護技術②(演習)	鳴海
7	7.衣生活に関する地域・在宅看護技術	鳴海
8	8.清潔に関する地域・在宅看護技術①	鳴海
9	9.清潔に関する地域・在宅看護技術②(演習)	鳴海
10	10.地域・在宅看護における安全を守る看護、地域における暮らしを支える看護実践	鳴海
11	11.訪問看護のマナーとコミュニケーション	鳴海
12	12.創傷に関する地域・在宅看護技術	鳴海
13	13.地域・在宅看護における感染・与薬管理 外来での化学療法、放射線療法と薬に関する地域・在宅看護技術	鳴海
14	14.苦痛緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術、終末期の看護(グリーフケア)	鳴海
15	履修認定	鳴海

科目名	成人看護学概論Ⅱ		
担当教員	大橋 正敏		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	15
履修目的・授業概要			
成人の健康な生活を維持・増進するための看護の役割を学ぶ			
到達目標			
1.ヘルスプロモーションと看護について学ぶ 2.地域社会および職場における成人のヘルスプロモーションを促進する看護について学ぶ 3.看護における症状マネジメントの概念について学ぶ 4.患者のセルフケアと看護師のセルフケア支援によって症状マネジメントを進める方法を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（80％）レポート（20％） ＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
成人看護学の概要や基本的な考え方の学習になります。成人看護に対する理解を深め、この単元の学習以降に続く、成人の健康レベルに応じた看護の学習に繋がってください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	

[illegible]

科目名	成人看護学方法論Ⅰ		
担当教員	畑中 亜希美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
生命の危機状況および周手術期にある対象と家族を理解し、手術侵襲や危機的状況からの回復に必要な看護を学ぶ			
到達目標			
1. 急性期状況及び周手術期の特徴を理解する。			
2. 急性期状況及び周手術期の対象と家族への看護を理解する。			
3. 生命危機にある対象の看護を理解する。			
4. 事例をもとに周手術期にある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義・演習・VTR			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）レポート（30％）			
＊不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
身体侵襲理論など既習内容を想起し、生命の危機状態にある対象への看護の理解を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦(編)	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	成人と急性期・急性期医療とは	畑中
2	急性期にある対象の特徴と看護	畑中
3	急性の循環機能障害のある患者の看護 事例:心筋梗塞	畑中
4	急性の循環機能障害のある患者の看護の実際 事例:心筋梗塞	畑中
5	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期看護：外科治療と外科看護	畑中
6	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期看護：手術室看護	畑中
7	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期の看護：術後の看護、術後合併症予防の看護	畑中
8	周術期にある対象の理解と受ける医療 周術期の看護：手術帰室時看護 演習・ワーク	畑中
9	周手術期にある対象の事例展開 事例:大腸がん (1)アセスメント	畑中
10	(2)アセスメントに基づいた問題の明確化 (3)看護計画の立案	畑中
11	(4)実施・評価	畑中
12		畑中
13		畑中
14		畑中
15	履修認定	畑中

科目名	成人看護学方法論Ⅱ		
担当教員	矢野 優子 滝沢 亜由美 齋藤 望美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要			
慢性病患者を理解し、生涯にわたり自己管理を必要とする対象と家族のセルフケア能力を高めるための看護を学ぶ			
到達目標			
1. 慢性期の特徴と、対象と家族への看護を理解する 2. セルフケアを高めるための看護の役割を理解する 3. 糖代謝に障害のある対象と家族の看護を理解する 4. 肝機能に障害のある対象と家族の看護を理解する 5. 事例をもとに慢性病患者の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）レポート（30％） ＊ 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
現代における慢性疾患の動向を捉え、社会的役割が大きい成人が病と生きることの困難さを理解し、患者支援における看護師の役割を深めてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1]	小松 浩子	医学書院	
成人看護学総論 系統看護学講座 別巻 家族看護学	上別府 圭子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.慢性期看護の特徴 1)慢性病の特徴 2)患者の理解 (1)病みの軌跡 (2)健康信念モデル	矢野
2	2.慢性期看護の実践 1)エンパワメントーエデュケーション 2)セルフマネジメント支援	矢野
3	3)セルフマネジメントを高める看護技術 4)自己効力を高める看護技術	矢野
4	3.日常生活再構築のための看護技術	矢野
5	糖代謝機能障害のある対象の看護 事例：糖尿病 1.疾患の特徴 2.患者の特徴 3.主な検査・治療と看護 4.症状と看護 5.退院に向けたセルフケアと看護	滝沢
6		滝沢
7		滝沢
8		滝沢
9	肝機能障害のある対象の看護 事例：肝硬変 1.疾患の特徴 2.患者の特徴 3.主な検査・治療と看護 4.症状と看護 5.退院に向けたセルフケアと看護	齋藤
10		齋藤
11		齋藤
12	慢性期にある対象の事例展開 事例：糖尿病 1)アセスメント 2)アセスメントに基づいた問題の明確化 3)看護計画の立案 4)実施・評価	矢野
13		矢野
14		矢野
15		滝沢・齋藤 矢野

科目名	成人看護学方法論Ⅲ		
担当教員	宗像 祐二 原田 明奈		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 障害がある人の生活とリハビリテーションを支援する看護を学ぶ			
到達目標 1.障害とは何かについて学び、障害がある人の障害の認識過程を知る 2.障害をもちながら生活する人を支援する看護を学ぶ 3.対象の日常生活を再構築するための看護について学ぶ 4.脳神経に障害のある対象と家族の看護を理解する 5.腎機能に障害のある対象と家族を理解する 6.事例をもとに障害がある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（70％）レポート（30％） ＊ 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ 運動機能障害・脳神経障害は早期に治療をを行っても完全治癒は難しく機能障害を残すことが多い。機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、リハビリテーションにおける看護者の役割を深めてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1]	小松 浩子	医学書院	
成人看護学総論			
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護	原 三紀子	医学書院	
系統看護学講座 専門 臨床看護総論	香春 知永	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.障害がある人とリハビリテーション 1) 回復期について 2)障害とは	宗像
2	3) 障害がある人の障害の認識過程 4) 障害がある人のリハビリテーション	宗像
3	2.障害がある人とその生活を支援する看護 1) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 2)看護の実際 (1)急性期のリハビリテーション	宗像
4	(2)回復期のリハビリテーション	宗像
5	(3)生活期のリハビリテーション	宗像
6	脳神経に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（脳梗塞） 2)対象の理解	原田
7	3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	原田
8	5)退院に向けたセルフケアと看護	原田
9		原田
10	腎機能に障害のある対象の看護 1)疾患の理解（糖尿病性腎症） 2)対象の理解 3)疾患の病態サマリー 4)症状と看護	宗像
11	5)退院に向けたセルフケアと看護	宗像
12	機能障害がある対象の事例展開 事例：脳梗塞 1)アセスメント	宗像
13	2)アセスメントに基づいた問題の明確化 3)看護計画の立案	宗像
14	4)実施・評価	宗像
15	履修認定	宗像 原田

科目名	成人看護学方法論Ⅳ		
担当教員	三上 美紀 大坪 聡織 渡邊 麻美		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
終末期にある対象とその家族の状態を理解し、その人らしいQOLを尊重した看護を学ぶ。			
到達目標			
1.人間にとっての死、全人的苦痛、死とともに生きることについて学ぶ 2.人生最期のときを支える看護について、看護の目的、看護師の態度、看護師の役割・機能の視点から理解する 3.終末期にある対象と家族への看護を理解する 4.事例をもとに終末期にある対象の看護過程の展開を学ぶ			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70％）レポート（30％） ＊ 不合格者は再試験とし、再評価			
学生へのメッセージ			
がん患者の現状と問題、がん治療と看護について認定看護師の専門的な観点から教授していただき学習します。終末期における人生最期の時を支える看護とは何か、看護師の役割理解に繋げてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 成人看護学[1]	小松 浩子	医学書院	
成人看護学総論 系統看護学講座 別巻 がん看護学	小松 浩子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	1.人生の最期のときを支える看護 1) 終末期について 2)人生最期のときにおける医療の現状 3)人生の最期のときを過ごしている人の理解	三上
2	4)人生の最期のときを支える看護 (1)看護の目的(2)援助の態度(3)看護師の役割・機能・意思決定支援・アドバンスケアプランニング	三上
3	1.終末期にある人のQOL 2.終末期にある人の持つ力を支える援助 1)ケアリング 2)エンパワメント	大坪
4	3.終末期にある人への心理的援助 1)予期悲嘆 2)心理的援助の基本的技術 3)スピリチュアルケア	大坪
5	4.終末期にある人への看護援助 1)家族のニード 2)予期悲嘆 3)役割移行 4)遺族ケア（グリーフケア）	大坪
6	5.緩和ケアにおける薬剤の活用と副作用 1)痛みに対する薬剤の活用と副作用対策 2)倦怠感に対する薬剤の活用と副作用対策	大坪
7	3)精神症状に対する薬剤の活用と副作用対策	大坪
8	1.肺がんの対象と家族への看護 1)疾患の理解 2)対象と家族の理解	渡邊
9	3)緩和ケア 4)治療・検査・処置を受ける対象の援助 5)ペインコントロール	渡邊
10	6)対象・家族への援助	渡邊
11		渡邊
12	終末期にある対象の事例展開 事例：肺がん 1)アセスメント	三上
13	2)アセスメントに基づいた問題の明確化 3)看護計画の立案	三上
14	4)実施・評価	三上
15	履修認定	渡邊・大坪 三上

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	前期	1	30
履修目的・授業概要			
高齢者が生活を円滑に進めるための援助ができる。高齢者のリスクマネジメントの概要について理解する。			
到達目標			
高齢者の日常生活動作の援助や支援を行うことができる。様々な場の特徴をふまえた看護の概要が理解できる。高齢者の医療安全・救命救急・災害の概要が理解できる。			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
高齢者に対する日常生活援助について、講義で学習したあと演習にて学んでいきます。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の生活機能を整える看護（1） 日常生活を支える基本的活動	細川
2	高齢者の生活機能を整える看護（2） 起居動作 移乗 移動 ポジショニング	細川
3	高齢者の生活機能を整える看護（3） 食事・食生活	細川
4	高齢者の生活機能を整える看護（4） 食事・食生活演習	細川
5	高齢者の生活機能を整える看護（5） 排泄	細川
6	高齢者の生活機能を整える看護（6） 清潔	細川
7	高齢者の生活機能を整える看護（7） 基本動作・移乗動作演習	細川
8	高齢者の生活機能を整える看護（8） 生活リズム	細川
9	高齢者の生活機能を整える看護（9） コミュニケーション セクシュアリティ 社会参加	細川
10	生活・療養の場における看護（1） 高齢者とヘルスプロモーション	細川
11	生活・療養の場における看護（2） 保健医療福祉施設および居住施設における看護	細川
12	生活・療養の場における看護（3） 家族の看護 多職種実践	細川
13	高齢者のリスクマネジメント（1） 医療安全・救命救急	細川
14	高齢者のリスクマネジメント（2） 災害	細川
15	履修認定	細川

科目名	老年看護学方法論Ⅱ		
担当教員	佐藤博美 池田千枝 伊藤薫子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	後期	1	30
履修目的・授業概要 高齢者の健康障害にたいする診断と健康段階や治療過程における援助方法について理解する。			
到達目標 高齢者に特徴的な疾患の病態生理を理解する。 治療を必要とする高齢者への看護について理解する。 薬物療法が高齢者に与える影響と服薬支援を理解する。 高齢者におけるリハビリテーションの概要を理解する。 高齢者におけるエンドオブライフケアの概要を理解する。			
授業の形式・方法 講義 演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 高齢者特有の疾患・治療・リハビリテーション・エンドオブライフケアについて理解していきましょう。 講義・演習の順が変わることがあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護学病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の疾患の特徴（１） 認知症 精神・神経疾患	佐藤
2	高齢者の疾患の特徴（２） 循環器系疾患 呼吸器系疾患	佐藤
3	高齢者の疾患の特徴（３） 消化器系疾患 内分泌・代謝系疾患	佐藤
4	高齢者の疾患の特徴（４） 自己免疫疾患 血液疾患 腎・泌尿器系疾患	佐藤
5	高齢者の疾患の特徴（５） 運動器疾患 皮膚疾患 感覚器疾患	池田
6	高齢者の疾患の特徴（６） 歯・口腔疾患 感染症	池田
7	治療を必要とする高齢者の看護（１） 検査 薬物療法	池田
8	治療を必要とする高齢者の看護（２） 手術 リハビリテーション	池田
9	高齢者と薬（１） 安全な薬物療法 注意すべきおもな薬物	池田
10	高齢者と薬（２） 薬物管理能力のアセスメントと服薬支援	池田
11	高齢者とリハビリテーション（１） 高齢者におけるリハビリテーション 内部障害	伊藤
12	高齢者とリハビリテーション（２） 肢体不自由 廃用性疾患 非薬物療法	伊藤
13	エンドオブライフケア	伊藤
14	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	伊藤
15	履修認定	池田 佐藤・伊藤

科目名	老年看護学方法論Ⅲ		
担当教員	細川 とき子		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	後期	1	15
履修目的・授業概要			
高齢者の健康の維持・増進、QOL向上への支援を目指し、老年期の特徴や対象がその人らしく生きることを重視した看護の展開をする。			
到達目標			
老年期にある対象の加齢に伴う変化や疾患による日常生活を支える基本的活動への影響を理解する。 対象のできることや強みを引き出し、その状態にあった具体的な看護計画を立案し、実施できる。			
授業の形式・方法			
講義 演習			
成績評価の方法・基準			
レポート（100％）			
学生へのメッセージ			
積極的な姿勢で取り組みましょう。 学習の取り組み方法や進度が変わることがあります。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
老年看護学	北川公子	医学書院	
老年看護学病態・疾患論	鳥羽研二	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 事例紹介	細川
2	常在条件・病理的状态、情報の整理 分析 解釈	細川
3	常在条件・病理的状态、情報の整理 分析 解釈 検討	細川
4	関連図、統合的アセスメント、プロブレム リスト、看護計画	細川
5	関連図、統合的アセスメント、プロブレム リスト、看護計画 検討	細川
6	看護計画実施	細川
7	評価	細川
8	評価 発表、再検討	細川
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	小児看護学方法論Ⅰ		
担当教員	福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 子どもの心とからだの健全な発達を援助するため、成長発達過程を理解し、子ども時代の健康生活の意義や養育のあり方を学ぶ。			
到達目標 1.小児各期の成長・発達の特徴がわかる 2.小児各期の生活過程を支援する方法がわかる 3.小児、その家族との人間関係の成立・発展させる方法が理解できる			
授業の形式・方法 講義 ディベート 小テスト レポート			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％） 不合格者は、筆記試験とし再評価			
学生へのメッセージ 教科書を読みながら受講、復習しましょう。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	小児各期の特徴 胎児、新生児	福原
2	小児各期の特徴 乳児期	福原
3	小児各期の特徴 幼児期	福原
4	小児各期の特徴 学童期	福原
5	小児各期の特徴 思春期・青年期	福原
6	小児各期の特徴 家族、医療費、予防接種、学校保健	福原
7	障がい 障がいの種類と特徴、看護	福原
8	虐待 児童虐待の種類と特徴、看護	福原
9	災害 災害の種類と対策、看護	福原
10	先天異常 先天異常の種類と特徴、看護	福原
11	事故 事故の種類と防止策、看護	福原
12	出生前診断 ディベートの練習	福原
13	子どもを取り巻く現状 小児医療・看護、学校、福祉の課題	福原
14	ひとがうまれるということ 産まれる、育つ、亡くなるについて考える	福原
15	履修認定	福原

科目名	小児看護学方法論Ⅱ		
担当教員	旭川医科大学 小児外科 旭川医科大学病院 看護師 福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
健康障害をもつ子どもとその家族の状況を理解し、健康障害からの回復、及び健康の保持・増進を促す看護を実施するための基礎的知識を身に付ける。小児看護学方法論Ⅱでは、小児科医師による講義と健康状態別の看護を学ぶ。			
到達目標			
1. 子どもの代表的な疾患を理解する			
2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を学び、看護を考えることができる			
3. 健康状態に合わせた看護が理解できる			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間 美保	医学書院	
小児看護学[2] 小児臨床看護各論			

コマ	履修内容	教員
1	子どもの疾患 子どもの感染症	医大 医師
2	子どもの疾患 呼吸・循環器系疾患	医大 医師
3	子どもの疾患 腎・泌尿器疾患	医大 医師
4	子どもの疾患 神経系・運動器系疾患	医大 医師
5	子どもの疾患 悪性新生物・血液造血器系疾患	医大 医師
6	子どもの疾患 感覚器系疾患	医師
7	子どもの疾患 精神疾患	医師
8	入院中の子どもと家族の看護 入院環境・入院中の子どもと家族の特徴	福原
9	外来・在宅療養中の子どもと家族の看護	医大病院 看護師
10	健康状態に応じた看護 慢性期にある子どもと家族の看護	福原
11	健康状態に応じた看護 NICU 急性期にある子どもと家族の看護	医大病院 看護師
12	健康状態に応じた看護 周手術期にある子どもと家族の看護	医大病院 看護師
13	健康状態に応じた看護 終末期にある子どもと家族の看護	福原
14	健康状態に応じた看護 ハイリスク新生児と家族の看護	福原
15	履修認定	医大 福原

科目名	小児看護学方法論Ⅲ		
担当教員	福原 緑		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
子どもの健康状態や成長発達に合わせて援助するために必要な基本的技術を学ぶ。さらに既習の知識を統合し、判断力や問題解決能力を高め、小児看護の役割について、考えを深める。小児モデル人形等を活用し、看護の理解を深める			
到達目標			
1. 健康障害のある子どもの看護に必要な基本的技術を身に付ける			
2. 健康障害のある対象の事例を通し、成長発達段階・健康状態に合わせた援助の方法を理解する			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（90％）技術試験（10％）			
不合格者は再試験とし再評価			
学生へのメッセージ			
一次救命処置の演習および技術試験（12～14）は、動きやすい私服（スカート等禁止）または実習着でのぞんで下さい。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 小児看護学[1] 小児看護学概論	奈良間 美保	医学書院	
小児臨床看護総論			
小児看護学[2]	奈良間 美保	医学書院	
小児臨床看護各論			

コマ	履修内容	教員
1	看護過程の展開：14項目アセスメント Ⅰ型糖尿病の低血糖の対応	福原
2	看護過程の展開：14項目アセスメント 喘息発作の対応、吸入	福原
3	看護過程の展開：統合アセスメント てんかん・けいれんの対応	福原
4	検査・処置時の看護 乳児の与薬、簡易懸濁、腰椎／骨髄穿刺	福原
5	バイタルサイン 乳幼児のバイタルサイン測定	福原
6	計測・測定 乳児の四計測	福原
7	ハンドリング 乳幼児の抱っこ、おむつ交換、採尿	福原
8	アレルギー エピペンの筋肉注射	福原
9	医療的ケア 人工呼吸器、胃瘻、気管切開の管理	福原
10	終末期ケア デス・エデュケーション、ACP面接	福原
11	一次救命処置（BLS） 窒息の対応、心肺蘇生、乳幼児へのAED	福原
12	一次救命処置（BLS） 演習：シナリオ作り	福原
13	一次救命処置（BLS） 演習：グループごとに練習	福原
14	一次救命処置（BLS） 技術試験	福原
15	履修認定	福原

科目名	母性看護学方法論Ⅰ		
担当教員	藤原 るみこ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 女性のライフサイクル各期における性や健康、身体的・心理社会的変化と看護ケアに関する基礎的知識を学ぶ。			
到達目標 1. 人間の性と生殖について理解する 2. 母性看護の対象者のライフサイクル各期の特徴と看護を理解する			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論	森 恵美	医学書院	
母性看護学[2] 母性看護学各論			

コマ	履修内容	教員
1	母性看護の対象の理解 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	藤原
2	母性看護の対象の理解 妊娠と胎児の性分化	藤原
3	母性看護の対象の理解 女性のライフサイクルと家族	藤原
4	母性看護の対象の理解 母性の発達・成熟・継承	藤原
5	リプロダクティブヘルスケア 家族計画	藤原
6	リプロダクティブヘルスケア 性感染症	藤原
7	リプロダクティブヘルスケア 人工妊娠中絶・性暴力を受けた女性に対する看護	藤原
8	リプロダクティブヘルスケア 遺伝相談	藤原
9	リプロダクティブヘルスケア 不妊治療	藤原
10	リプロダクティブヘルスケア 不妊治療夫婦の看護	藤原
11	女性のライフステージ各期における看護① 思春期の健康と看護	藤原
12	女性のライフステージ各期における看護② 性成熟期の健康と看護	藤原
13	女性のライフステージ各期における看護③ 更年期・老年期の女性の特徴	藤原
14	女性のライフステージ各期における看護④ 更年期・老年期女性の健康問題と看護	藤原
15	履修認定	藤原

科目名	母性看護学方法論Ⅱ		
担当教員	藤原 るみこ 山崎 知文		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2	後期	1	30
履修目的・授業概要			
マタニティーサイクルにある対象の特徴と看護を学ぶ。助産師による順調な経過をたどる、妊産褥婦・新生児に加え、医師による異常のある経過をたどる妊産褥婦・新生児の講義を行う。			
到達目標			
1. 妊婦の身体的、心理社会的変化、看護ケアを理解する 2. 分娩経過・進行に伴う、産婦・胎児の変化、看護ケアを理解する 3. 褥婦の身体的変化、心理的適応、看護ケアを理解する 4. 新生児の生理学的適応、早期新生児期の看護ケアを理解する			
授業の形式・方法			
講義			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論	森 恵美	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	妊娠期における看護 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性	藤原
2	妊娠期における看護 妊婦と胎児のアセスメント	藤原
3	妊娠期における看護 妊婦と家族の看護	藤原
4	分娩期における看護 分娩の要素・経過	藤原
5	分娩期における看護 産婦・胎児、家族のアセスメント・看護	藤原
6	分娩期における看護 分娩期の看護の実際	藤原
7	新生児期における看護 新生児の生理、アセスメント	藤原
8	新生児期における看護 新生児の看護	藤原
9	産褥期における看護 産褥経過・アセスメント	藤原
10	産褥期における看護 褥婦と家族の看護	藤原
11	産褥期における看護 施設退院後の看護	藤原
12	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 妊娠の異常と看護	山崎
13	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 分娩の異常と看護・新生児の異常と看護	山崎
14	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 産褥の異常と看護	山崎
15	履修認定	藤原 山崎

科目名	母性看護学方法論Ⅲ		
担当教員	田坂 久子 澤田 みどり		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	15
履修目的・授業概要			
周産期の事例をもとに看護過程の展開を学ぶ。援助の実施では、新生児モデル人形を用いて、演習を行う			
到達目標			
1. 情報を活用し、ウェルネスの視点に基づいたアセスメントができる			
2. 看護目標を明確にし、計画を立案することができる			
授業の形式・方法			
講義・演習			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50％）レポート（50％）			
学生へのメッセージ			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
系統看護学講座 母性看護学[1] 母性看護学概論	森 恵美	医学書院	
母性看護学[2] 母性看護学各論	森 恵美	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	母性看護における看護過程の展開 看護過程の特徴／妊・産・褥、新生児の看護	田坂 澤田
2	事例を用いた看護過程展開の実際 正常経過の褥婦	田坂 澤田
3	事例を用いた看護過程展開の実際 正常経過の褥婦	田坂 澤田
4	事例を用いた看護過程展開の実際 正常経過の新生児	田坂 澤田
5	事例を用いた看護過程展開の実際 正常経過の新生児	田坂 澤田
6	事例を用いた看護過程展開の実際 援助の実施	田坂 澤田
7	事例を用いた看護過程展開の実際 援助の実施	田坂 澤田
8	履修認定	田坂 澤田
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	精神看護学方法論Ⅰ		
担当教員	稲葉 央子 坂井 聖康 鳴海 薊花		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 精神疾患・治療について理解し、看護の基礎を学ぶ。 精神科看護師として知っておくべき法制度を学ぶ。			
到達目標 1) 精神障害の診断と分類とさまざまな精神障害と精神症状がわかる 2) 精神看護における症状のとりえ方を理解する 3) 精神科における治療がわかる 4) リスクマネジメントの基本的な考え方を知る 5) 身体のケアがこころのケアになることがわかる 6) 精神科に多い身体合併症と日常的に行われるケアがわかる 7) 精神障害者の医療や福祉について定めた法律を理解する			
授業の形式・方法 講義			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 予習をして授業を受けるようにしてください			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	精神症状論と状態像	稲葉
2	精神障害の診断と分析①	稲葉
3	精神障害の診断と分析②	稲葉
4	精神科での治療	稲葉
5	精神障害と看護	坂井
6	リスクマネジメントの考え方と方法	鳴海
7	緊急事態への対処	鳴海
8	精神科における身体のケア	鳴海
9	精神科における身体合併症	鳴海
10	精神科における身体ケアの実際	鳴海
11	精神障害と法制度①	坂井
12	精神障害と法制度②	坂井
13	精神障害と法制度③	坂井
14	精神障害と法制度④	坂井
15	履修認定	稲葉 坂井・鳴海

科目名	精神看護学方法論Ⅱ		
担当教員	鳴海 繭花 坂井 聖康 三上 あすか		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	前期	1	30
履修目的・授業概要 精神障害をもつ人へのケアの基本的な方法、回復を支える治療的アプローチを学ぶ。治療的環境をつくり出すために看護師に求められていることを学ぶ。看護には感情労働の側面があり、メンタルヘルス上の問題を引き起こす可能性があることを知る			
到達目標 1) ケアの原則がわかる 2) ケアの基本的な方法がわかる 3) 患者にとっての回復リカバリーの意味を理解する 4) 治療的環境の条件がわかる 5) 地域で暮らす精神障害者の生活を支援する方法を理解する 6) リエゾン精神看護の役割と活動を知る 7) 感情労働が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響を知る			
授業の形式・方法 講義・演習			
成績評価の方法・基準 筆記試験（100％）			
学生へのメッセージ 予習・復習をして授業を受けてください、			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の基礎	武井麻子	医学書院	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	ケアの前提	坂井
2	ケアの原則	坂井
3	ケアの方法	坂井
4	回復を支援する リカバリーのプロセス	鳴海
5	回復を支援する リカバリーを促す環境・方法	鳴海
6	回復を支援する さまざまな回復のためのプログラム	鳴海
7	回復を支援する 回復のためのプログラムの実際	鳴海
8	地域におけるケアと支援 地域における生活支援の方法	三上 あ
9	地域におけるケアと支援 職場におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
10	地域におけるケアと支援 学校におけるメンタルヘルスと看護	三上 あ
11	リエゾン精神看護	坂井
12	リエゾン精神看護	坂井
13	感情労働としての看護	坂井
14	看護師のメンタルヘルス	坂井
15	履修認定	坂井 鳴海・三上

科目名	精神看護学方法論Ⅲ		
担当教員	坂井 聖康		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
2年	後期	1	30
履修目的・授業概要			
患者の生きにくさの大半は人間関係に関連していて、看護師が患者とのやりとりを吟味することで、その生きにくさを知ることが可能になる。自分をみる自分という視点を獲得することを目指す。また患者の身体面・心理面・社会面のアセスメントから看護援助の方向性を見出す			
到達目標			
1) 自分自身の感情に気づける			
2) やりとりの意味、つながりを見つけられる			
3) 自分の感情を手がかりに患者を理解できる			
4) 患者の背景や人となりを知るための精神科アセスメントができる			
5) 患者の生活状況を全体的に把握するための生活状況アセスメントができる			
授業の形式・方法			
講義形式・グループワーク			
成績評価の方法・基準			
出席2/3以上で履修認定試験を行う。60点以上を合格とし、満たない場合は、再試験を行う			
学生へのメッセージ			
プロセスレコードは、実習で書きますので、休まないようにしてください。			
<教科書・参考書>			
書名	著者名	発行所	
精神看護の展開	武井麻子	医学書院	

コマ	履修内容	教員
1	プロセスレコードとは プロセスレコードのしかけ	坂井
2	関係をアセスメントする アセスメントのポイント	坂井
3	ペプロウの理論	坂井
4	事例でみるプロセスレコードの読み方①	坂井
5	事例でみるプロセスレコードの読み方②	坂井
6	プロセスレコードの書き方①	坂井
7	プロセスレコードの書き方②	坂井
8	オーランド、トラベルビーの理論	坂井
9	精神看護実習で遭遇する場面① 幻覚のある患者のアセスメント	坂井
10	精神看護実習で遭遇する場面② 幻覚のある患者のアセスメント	坂井
11	精神看護実習で遭遇する場面③ 妄想のある患者のアセスメント	坂井
12	精神看護実習で遭遇する場面④ 妄想のある患者のアセスメント	坂井
13	精神看護実習で遭遇する場面⑤ 拒否・攻撃性のある患者のアセスメント	坂井
14	精神看護実習で遭遇する場面⑥ 無為・自閉の患者のアセスメント	坂井
15	履修認定	坂井